

平成 27 年度 可茂特別支援学校 第 2 回 学校評議員会

日 時 2016/2/23 (火) 9:30～11:30

場 所 可茂特別支援学校 会議室

司 会 教頭 / 記 録 教務主任

出席者	学校評議員	板津幹彦	東和組立株式会社代表取締役
	(五十音順)	小川たか子	中山道発展会理事・美濃加茂市商工会女性会理事
		加木屋郁雄	下米田地区自治会長・牧野地区区長
		前田直子	可児市こども発達支援センターくれよん所長
		渡辺俊幸	美濃加茂市文化団体連盟参与
学	校	鈴木隆司	校長
		永田長文	P T A 会長
		若井賢二	事務長
		長野武郎	教頭
		高橋泰行	小学部主事
		石原和寿	中学部主事
		浅野忠一郎	高等部主事
		大竹陽平	教務主任

1 校長挨拶

2 議題

(1) 各学部の活動報告

- ① 小学部 (小学部主事より)
- ② 中学部 (中学部主事より)
- ③ 高等部 (高等部主事より)

(2) 授業参観

小学部 部集会
中学部 グループ活動 (自立活動)
高等部 卒業生を送る会準備等 (生活単元学習)

(3) アンケート結果について (教頭より)

(4) ご意見・ご感想

意見 1 ・苦手なものをどう取り入れていくのかをよく考えて工夫されている。
・子に応じた手立てを組み、社会へ向けて取り組まれている。
・発達や技能向上に感心させられた。受け皿となる社会側の仕組みも必要。
・地域との関係づくりのための工夫が今後求められる。

意見 2 ・いろいろな子どもさんのいらっしゃる中、先生方の工夫に感心させられる。
・農作業を地域の方に教えていただくような交流を積極に進められるとよい。

- 意見3
- ・外向きの活動が多くなってきた。子どもたちの姿も生き生きしている。
 - ・卒園児の活躍する姿を見ることが出来てうれしかった。
 - ・就労時、保護者として就労先をいろいろ考えて決めたが、就労後に事業所の内容が変わったことで、子どもたちの生活にも困難さが出てくるようなこともある。就労時、保護者の見極める力を高めていくことが出来るとよい。
 - ・就労後につまづく方も少なくはない。保護者をサポートする仕組みがあるとよい。

- 意見4
- ・充実した取り組みをされていると感じる。
 - ・18歳からの選挙が現実のものとなってきた。選択する力をどのように身に付けていくことができるだろうか。社会について、自立について、学校全体でのとらえも必要だと思う。
 - ・卒業後、社会へ出てからの支援は、いつまで、どこまで必要なのだろうか、卒業生も増え、卒業後の支援の仕組み作りも積極的に行ってほしい。また、社会全体での検討も必要だと考える。

- 意見5
- ・卒業生の保護者として、卒業後の不安はある。
 - ・これまでの卒業生でも問題を抱える生徒は少なくない。
 - ・卒業した後に相談することのできる人や同窓会館のような集える場所があると安心。
 - ・学校に集える場所があることが理想だが、地域の中に集える場所、相談できる人を作っていくことも大切だと思う。

校長より（まとめにかえて）

- ・社会自立へ向け、小学部よりいろいろな取り組み、キャリア教育を進めている。一つ一つの活動が、生きていくための資質になっているはず。自分で考え、学ぶ仕組みが必要であり、実践を重ねていきたい。
- ・将来への不安を軽減していくためにも、地域の中で生きていくための力を育てていく工夫が必要。その一環として、居住地校交流、地域交流はじめ、地域へ出かける活動等に積極的に取り組み、発信していく努力を重ねている。このことが、子どもたち、保護者の安心、安全につながればと願っている。
- ・卒業後の取り組みの一つとして、クラブチームの立ち上げがある。卒業後も、クラブチームで活動を続ける機会を提供することで、自身の生活を工夫しようとする力も育ち、就労、社会自立の大きな支えとなることを願っている。